

取材を受けた
harahachi farmの
中村代表のお話

いろいろ
の
取材を受けて

取材を受けた
夢民舎の
吉川副社長のお話

取材を受けるとなつてまずは「本当に藤尾さんが来た！」と驚きました。話すことが得意というわけではないので取材を受けるまで不安だったと話す中村さんでしたが、気さくな藤尾さんと話しの引き出し方の巧みに「思わず喋らさっちゃった」と1年前を懐古。家族と一緒に完成した映像を見たそうで「自分達が無我夢中でやって来た10年が報われたような気がした。これからやっていきたいこと、進むべき道というものが明確になったと思う」と、自信に繋

がっていった中村さんの様子。「なんだか小つ恥ずかしい気持ちになつたけど、他に取材を受けた方々とも相まってなんだか感動する作品。その一部として加わることができて良かった」と振り返ってくれました。映像中では、北海道胆振東部地震で倒壊した納屋の廃材が焚き火の材料として使われる。「暗い話題を避けるのでなく、向き合ってくれる藤尾さんの寄り添うような優しさがしみ出る作品でありがたい気持ち」と教えてくれました。

「お話を貰ったときは、新型コロナウイルス感染症が拡大を見せていたときだったので、とても魅力的なお話でしたんですけど最初はお断りをしたんです。だけどその後も熱心に調べてくれて。酪農文化というところを切り口として映像制作に取り掛かろうと思っているからぜひと熱意に負けました」と笑って話す吉川さん。テレビに出ている方なのでガツガツしているのかな？なんて思ったりもしていたんですが、物腰柔らかく、お話を引き出すのもとて

も上手でさすがだなと感じたそうです。取材は、代表取締役である宮本正典さんが主に受け、時には数時間も話し合うことがあったとのこと。そんなシーンも映像に盛り込まれており、「普段見ることのない一面を垣間見ることができた」と吉川さん。「綺麗にまとめてくれただけでなく、安平町の歴史の一つである酪農を取り上げてくれたことは嬉しかった。安平町の魅力を伝える映像としてこれからも多くの人に伝わる作品となれば」と話してくれました。

「菜の花畑でソロキャン～安平町を食べ尽くす～」を終えて

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中の出来事。安平町に来ることも難しいかと思いましたが、PCR検査などをして「まちの迷惑にならないように」と最大限の配慮をしつつ何度も足を運んでくれた藤尾さん。時期をずらせばもっと手間をかけず取材することもできたでしょうが、準備・対策をする姿に本気度が伺えたと思っています。取材を進めていく中で、たくさんの取材先の候補が上がり、やむを得ず取材を見送ったケースもいくつもあったのは非常に残念に思うほどの映像の仕上がり。行政が手がけてきた安平町の映像とは、また違う映像になっていると思います。ぜひ皆さんにも見ていただけたら嬉しいです。(小林)